






研究者名※	勝又 淳司 KATSUMATA ATSUSHI	学位※	修士(政策学)
所属※	家政学部 被服学科	職名※	講師
連絡先	katsumataa @fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.		
researchmap※	https://researchmap.jp/ atsushikatsumata		
研究分野※	家政・生活学一般、環境政策・環境社会システム		
研究キーワード※	消費科学・ファッションビジネス・環境政策・環境経済学		
共同研究・競争的資金等の研究課題	23年度法政大学カーボンニュートラル研究助成「繊維産業における国際産業連関表分析によるカーボンプライシングの波及効果に関する研究」 代表研究者 24年度バロック村井博之財団 研究助成「環境税を賦課した状況下での繊維製品の支払意志額に関する研究」 代表研究者		
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴			

研究領域	消費科学・ファッションビジネス・ 環境政策・環境経済学	(SDGs)			
研究テーマ※	消費科学・ファッションビジネス・環境政策・環境経済学				
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 繊維産業がもたらす環境負荷が指摘されて久しいが、抜本的な解決策の提示はなされていない。特に需給バランスの適正化が必要であり、解決に向けて消費者の自主的な行動変容が重要である。また、より強制的な手段としてカーボンプライシングをはじめとする環境税の導入による価格の変動や、それがもたらす需給バランスの変化について研究を行っている。これにより、製造時を中心とするGHG排出量および汚染水の排出等を削減するための一助としたいと考えている。</p> <p>【応用例、研究の展望】 主な応用例は下記の通りである。 ・繊維製品に環境税が導入された際の短期的な価格の上昇に関し、国際産業連関表により分析する ・繊維製品においてどの程度価格が上昇した際に、消費者は需要を減らすのか ・消費者の環境に対する行動変容に向けて、どのような意識づけや消費者教育が必要か ・環境負荷を軽減するために生産量を減らす際に、国内繊維産業が持続可能性を保持するためにどのような要素が必要か</p> <p>【研究方法の特色】 繊維産業に特化した環境政策の学術的研究は国内において多くない点に特色がある。特に環境経済学の理論を土台とした国際産業連関分析や、多変量解析による消費者意識の検証などに重きを置いており、特色があるとともに研究の意義があるといえる。</p>				
本研究関連特許・論文等	・勝又 淳司, 繊維工業におけるダイナミック・ケイパビリティによる変化対応に関する研究 —セーレン株式会社を事例として—, ファッションビジネス学会, 28巻, pp.1-9, 2023年8月				
共同研究・外部機関との連携への期待	・				